真岡市行政評価システム

評価対象年度　令和7　年度　　**事務事業評価マネージメントシート**　　作成日　令和8年3月13日

事務事業名	雨水浸水対策事業	担当課・係	上下水道部　下水道課　工務係
政策名　No	5　「環境づくり」～安全なまちアップ！～	関連する SDGs･DX	
施策名　No	4　防災体制の整備・強化		

成果指標

名　称	単　位	初年度からの実績値の比較 R7	R8	R9	R10	R11	目標値 R11
災害に対する備えを行っている市民の割合	%	78.6					80.0
防災情報を入手している市民の割合	%	93.1					100
防災リーダー養成研修の修了者がいる自治会の割合	%	46.2					80.0
地区防災計画の策定数	地区	5					21

事業内容

近年各地で自然災害が相次いで発生し、大きな被害を受けている中、市民の生命、身体、財産を守るため、災害対策の再認識や防災体制の強化に取り組んでいる。
雨水整備については、市街地の浸水を防ぐため、昭和48年1月に事業認可を得て、行屋第1排水区の140haに着手し、以降順次整備を行っている。雨水の事業計画面積は1,345.5haで、令和6年度末では809.0haが整備され、整備率は60.1%となっている。

令和6年度は、雨水（内水）が氾濫した際の浸水想定区域や避難方法などの情報を示した、内水ハザードマップを作成した。

前年度の課題（Check）

【課題】
1.浸水が懸念される箇所（未整備箇所・旧基準整備箇所）での下水道による浸水対策について、地形的要件や関連施設の整備状況を踏まえ、降雨時の状況を注視しながら施設整備の必要性を判断し、当面・中長期の整備方針を定め、水災害に強いまちづくりの実現を図る。
2.昨今の集中豪雨の頻発化に対応するため、国では「雨水管理総合計画」の策定を推奨している。現在の公共下水道による雨水施設整備は５年確率で行っているが、これ以上の規模の整備には、雨水版のマスタープランと言われる同計画の策定について検討していく。

7年度振り返り

【１】実績（Do）７年度に実施した事業
【実績】
公共下水道雨水管渠整備工事寺内地区6-1号　L=291.0m
寺内第2調整池整備工事3工区　A=1,348㎡
公共下水道雨水管渠整備工事寺内地区6-2号　L=286.5m
公共下水道人孔蓋交換工事6-1号　8箇所
公共下水道人孔蓋交換工事7-1号　22箇所
公共下水道人孔蓋交換工事7-2号　24箇所
公共下水道雨水管渠整備工事寺内地区7-1号　L=106.0m

【２】結果と課題（Check）
【結果】
雨水未整備地区の整備を促進し、整備率の向上を図った。
【課題】
浸水が懸念される箇所（未整備箇所・旧基準整備箇所）での下水道による浸水対策について、地形的要件や関連施設の整備状況を踏まえ、降雨時の状況を注視しながら施設整備の必要性を判断し、当面・中長期の整備方針を定め、水災害に強いまちづくりの実現を図る。

今後の方向性と具体策

□ 廃止　□ 休止　□ 目的絞り込み　□ 目的拡充　□ 事業統廃合　□ 事業のやり方改善　□ 予算削減　□ 予算増大　■ 現状維持(従来通りで特に改革改善しない)

【３】具体的な改善策(Action➡Plan)　課題に記載された内容の解決に向けた取り組みについて、**いつ、何を、どのように実施し解決に導くのかを具体的に**記載してください。

（1）ただちに取り組むべきこと
浸水が懸念される箇所について道路管理者から冠水情報を収集すると共に、引き続き降雨時の状況を注視しながら、施設整備の必要性を判断する。

（2）長期的な計画で検討すること
昨今の集中豪雨の頻発化に対応するため、国では「雨水管理総合計画」の策定を推奨している。現在の公共下水道による雨水施設整備は５年確率で行っているが、これ以上の規模の整備には、雨水版のマスタープランと言われる同計画の策定について検討していく。